

教職員の皆さんへ

サマーセミナー受講生募集

平成27年度教職員サマーセミナー案内

夏季休業を利用して、今日的な教育課題についての見識を深め、教職に関わる教養を高め、幅広い教師力を身に付けませんか。明日の教育活動に役立つ講座を用意しています。

講座案内

10講座を開きます。

詳細は、

- 宇都宮大学のホームページ

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>

- 総合教育センターのホームページ

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

に記載されています。

対象者

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教職員

会場と時間

宇都宮大学(峰キャンパス)において、9時30分から16時まで

申し込み方法

7月13日(月)までに、次のいずれかの方法により申し込んでください。

- ① FAXによる申込み

2ページ目のFAX送信票に必要事項を記入して送信してください。

FAX番号：028-649-5334

- ② メールによる申込み

勤務校名、同電話番号、同FAX番号、申込者氏名、研修区分、

受講希望講座番号、受講希望講座名を明記して次のアドレスに送信

してください。

ssc-1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

旅費等

旅費は個人負担になります。また、受講する講座によっては、教材費がかかる場合もありますので、御承知おきください。

その他

- ① このセミナーは、初任者研修、教職2～5年目研修、養護教諭2～5年目研修、学校栄養職員2～5年目研修、教職10年目研修の選択研修の対象にもなっています。

- ② 会場の宇都宮大学(峰キャンパス)には自家用車で入構できます。大学へのアクセス及び構内案内は、宇都宮大学ホームページで確認してください。当日、正門案内所でも御案内いたします。

- ③ このセミナーに関する問合せは、宇都宮大学教職センター地域連携部門(スクールサポートセンター)(028-649-5272)で承ります。

主催 宇都宮大学教職センター・栃木県総合教育センター

平成 27 年度 教職員サマーセミナー受講申込み FAX 送信票

送 信 先	宇都宮大学教職センター 教職員サマーセミナー担当 宛			F A X	0 2 8 - 6 4 9 - 5 3 3 4		
発 信 元 (申込者)	勤務校名	立				学校	
	電話番号	— —	F A X 番号	— —			
	申 込 者 氏 名	(ふりがな)					
	研修区分	選択研修として受講を希望される方は、該当の口欄に ○ をご記入ください。 <input type="checkbox"/> 初 任 者 研 修 <input type="checkbox"/> 教 職 2 ～ 5 年 目 研 修 <input type="checkbox"/> 養 護 教 諭 2 ～ 5 年 目 研 修 <input type="checkbox"/> 学 校 養 護 職 員 2 ～ 5 年 目 研 修 <input type="checkbox"/> 教 職 1 0 年 目 研 修					

希望	講座 番号	講 座 名	分 野	講 師	実施日	定員	対象教員	その他
	1	発達障害児へのアセスメントと個別支援	特別支援教育	原田 浩司	7月24日 (金)	72名	小・中・高・特	☑
	2	中学校国語科の教科経営	中学校国語	高橋 重年	7月30日 (木)	20名	中	☑
	3	授業研究基礎	授業分析・ 授業方法	溜池 善裕	7月30日 (木)	40名	小・中・高	/
	4	道徳授業の資料と発問	道徳教育	上原 秀一	7月31日 (金)	30名	小・中	/
	5	発育期における体育・スポーツ指導のあり方	保健体育	加藤 謙一	7月31日 (金)	20名	小・中・高・特	☑
	6	アクリル絵具を用いた小品制作	美術（絵画）	株田 昌彦	8月 3日 (月)	15名	小・中	☑
	7	子どもの育ちと性	家庭・保健・ 養護教諭	良 香織	8月 6日 (木)	25名	小・中・高	/
	8	校内授業研究を中心とした学校改善	教育学	松本 敏	8月11日 (火)	50名	小・中・高・特	/
	9	障害の重い子どもとの教育的係わり合い	特別支援教育	岡澤 慎一	8月20日 (木)	50名	小・中・高・特	/
	10	放射線について体験的に学ぼう	環境教育・ 理科教育	山田 洋一 堀田 直巳	8月20日 (木)	20名	小・中・高・特	/

☆注意 ☑を付した講座については、御準備いただくものや参加に当たって御注意いただくことが色々ありますので、ホームページを御確認下さい。

(備 考)

- 1 参加を希望する講座の希望欄に○を付けてください。（複数選択可）
- 2 各講座の詳細は、宇都宮大学または総合教育センターのホームページでご確認ください。
- 3 申込期限は、7月13日（月）です。
- 4 定員を超えた場合は先着順とします。状況によっては、多少の増員をする場合もあります。
- 5 受講の可否は、7月中旬頃に各所属長あてに通知します。
- 6 申込みの際は、本送信票をコピーしてお使いください。

講座案内

会場・開講時間はいずれも、
宇都宮大学(峰町キャンパス)・
9時30分～16時です。

7月24日(金)

分野:特別支援教育

1. 発達障害児へのアセスメントと個別支援

講師:原田 浩司

会場:5C21教室(地域連携教育研究センター 2F)

対象教員:小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定員:72名

準備等:ストップウォッチ、計算機(スマホ等でも可)

概要: 特別支援教育の中でも通常学級における発達障害児への個別支援の在り方が問われています。特に、通常学級では早期発見・早期支援の可否が、子どもたちの学校生活の適応に大きな影響を及ぼします。

今回は、発達障害のアセスメントについての方法を体験的に学んだり、事例を通じた個別支援の在り方を考えたりしていきます。

7月30日(木)

分野:中学校国語

2. 中学校国語科の教科経営

講師:高橋 重年

会場:コミュニティフロア(UUプラザ 2F)

対象教員:中学校国語科教員

定員:20名

準備等: 中学校学習指導要領解説 国語編 平成20年7月
現在お使いの教科書もしくは教材化したい資料等。

概要: 宇都宮大学教育学部附属中学校国語科における実践例をお話しします。その際、教材研究の仕方や指導案の書き方についても触れたいと考えています。

また、参加者がお互いの実践や課題(指導内容、指導過程、指導法、教材開発、評価等)を語り合い、解決方を模索する時間を設定します。

さらに、グループによる「指導案作成と模擬授業」を実施し、参加者が協力し合いながら授業づくりを学び合います。今後、指導案づくりをする予定がありましたら、教材をぜひお持ち下さい。

7月30日(木)

分野:授業分析・授業方法

3. 授業研究基礎

講師:溜池 善裕

会場:5C21教室(地域連携教育研究センター 2F)

対象教員:小学校・中学校・高等学校

定員:40名

準備等:特になし

概要: 授業記録(逐語記録)をもとにした授業研究は、60年以上前に名古屋大学教育学部方法学研究室で生み出された方法ですが、その具体的な方法や良さはあまり知られてはいません。この講座では、授業記録を参照しつつ具体的な授業(DVD)を観て、授業における子どもの事実を手がかりとしながら授業を分析し、「良い授業」とはどのような授業なのかについて考究を深めることで、授業記録をもとにした授業研究会の在り方やその意義について具体的に学ぶことが出来ます。これまでの授業研究に物足りなさを感じている先生、是非参加してみてください。授業記録は「良い授業」とされるものを選ぶ予定です。

7月31日(金)

分野:道徳教育

4. 道徳授業の資料と発問

講師:上原 秀一

会場:5C21教室(地域連携教育研究センター 2F)

対象教員:小学校・中学校

定員:30名

準備等:特になし

概要: 小・中学校の道徳の授業は、道徳的实践力を育成するために行われています。道徳的实践力を育成するとはどういうことでしょうか。道徳的实践力を育成するために、どのような資料を使ってどのように発問すべきでしょうか。児童生徒の反応にどう応じるべきでしょうか。具体的な材料を使ってこれらの問題を考えていただきます。小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年、中学校に分かれて、グループワークを行っていただきます。

7月31日(金)

分野:保健体育

5. 発育期における体育・スポーツ指導のあり方

講師:加藤 謙一

会場:8号館A棟2F 小会議室(教育学部8号館 2F)
及び 第一体育館

対象教員:小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定員:20名

準備等:トレーニングウェア(着替え等)、体育館シューズ、はさみ。
講義だけでなく、実技も予定しているのでケガには十分注意
してご参加下さい(見学可)。実技内容はハードではないので
ご安心下さい!

概要: 現在の子どもが置かれている環境・実態を示しながら、子ども
の体力低下に歯止めをかけるための具体的な考えやその方法
について紹介します。また、基本的な動作に関する観察の
観点を示し、指導者に必要な運動観察力を高める演習も行い
ます。さらに基本的な動作に関する動きの実技・指導を通して
体育授業を効果的にすすめる方法についても扱います。

8月3日(月)

分野:美術(絵画)

6. アクリル絵具を用いた小品制作

講師:株田 昌彦

会場:8号館B棟1F 図画工作室(教育学部8号館 1F)

対象教員:小学校・中学校

定員:15名

準備等:スケッチブック、筆(太、中、細、種類があると良い)、
100円ショップ等で販売されているフォトフレーム、転写に
用いる写真。基本的な絵具、パレットはこちらで準備しま
すが、その他ご自身で用具をお持ちであれば、持参して下さい。

概要: アクリル絵具の素材特性と描画法について解説を行い、「自
宅に飾りたい絵画」というテーマで小品(ミニアチュール)の
制作を行います。事前に市販のフォトフレームを準備してい
ただき、そのフレームに収まるサイズの作品を描きます。ま
た、アクリルメディウムによる写真転写の技法も行います。
各々の作品の題材は自由ですので予め描きたい内容を(アイ
デアスケッチや写真資料等)準備しておく和良好的です。併
せて、写真転写に使用する写真(新聞や雑誌の切り抜き等)を持
参して下さい。

8月6日(木)

分野:家庭・保健・養護教諭

7. 子どもの育ちと性

講師: 良 香織

会場: 8A21教室(教育学部8号館 2F)

対象教員: 小学校・中学校・高等学校

定員: 25名

準備等: 特になし

- 概要: 1. 人間の性に関する理論のミニマム・エッセンスを講義する。
(人権としての性の学び、性に関する国際的動向と日本の現状、子どもに何をどこでどのように教えるか等)
2. 性に関する健康と人権の現実を紹介する。(恋愛とデートDV、スクールセクシュアルハラスメント等)
3. タイムリーな性の問題を取り上げて問題提起します。(多様な性: 性別違和、性同一性障害を含む、メディアと性等)
- 単に知識や「答え」を学ぶのではなく、自らの生き方とも関連づけて考えてもらえればと思います。

8月11日(火)

分野:教育学

8. 校内授業研究を中心とした学校改善

講師: 松本 敏

会場: 8号館C棟2F 大会議室(教育学部8号館 2F)

対象教員: 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定員: 50名

準備等: 特になし

- 概要: 一人一人の教員の力量を高めることが大切なのはもちろんですが、それだけでは学校全体の力は高まりません。どうすれば同僚性を高め、個々の力を結集できるのでしょうか。校内授業研究を継続することで学校が活性化する道筋を、私が実際に関わった小・中学校の経験をもとに考えます。

8月20日(木)

分野:特別支援教育

9. 障害の重い子どもとの教育的係わり合い

講師:岡澤 慎一

会場:8A33教室(教育学部8号館 3F)

対象教員:特別支援学校教員を主たる対象とするが、限定するものではない

定員:50名

準備等:特になし

概要:ここでは、障害が重い子どもとの教育的係わり合いにおいて重要になる視点について、長期間にわたる教育実践の経過に関する映像資料をふんだんに用いながら検討を進めます。特に、コミュニケーションにおける共同性と相互性、子どものイニシアチブ、探索活動および教育的係わり合いにおける実践と省察の循環過程などに焦点をおきます。こうした取り組みのなか、障害が重い子どもへの教育は、教育の原点であるといわれる意味を見出していただければと思います。

8月20日(木)

分野:環境教育・理科教育

10. 放射線について体験的に学ぼう

講師:山田 洋一、堀田 直巳

会場:8A21教室(教育学部8号館 2F)及び基礎物理学実験室

対象教員:小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

定員:20名

準備等:特になし

概要:講義 (1) 文科省他の資料紹介、栃木県内の測定事例報告(山田・堀田)
(2) 放射線とサーベイメーターの原理説明(堀田)

体験1 教材を用いた放射線測定実習(堀田・山田)

体験2(実験室) 放射線を見る(霧箱)実験(堀田・山田)

ワークショップ及び講義(教室)

(1) 体験活動1、2のまとめ(堀田・山田)

(2) 受講者による話し合い(ワークショップ)

(3) リスクとベネフィット、ホルミシス(山田)

(4) 質疑応答

講座のまとめと事後アンケート(山田)

平成 26 年度開催の様子を紹介

講座番号 4 道徳授業の資料と発問



資料を元に、
道徳教育についてワーク
ショップを行った。



講座番号 5 発育期における体育・スポーツ指導のあり方

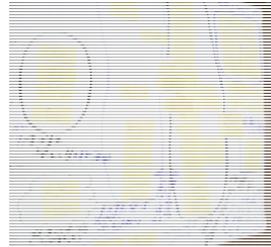


午前中は座学、午後は実践を行った。



講座8 校内授業研究を中心とした学校改善

ワークショップを行い、また、実践の資料映像を用いて講義を行った。



講座9 障害の重い子どもとの教育的係わり合い



映像資料（子どもとの教育実践の取組の様子）を用いて、教育実践についての講義を行った。

講座10 放射線について体験的に学ぼう



午前は講義と放射線を測定する機器を用いて実際に線量を測定。午後はワークショップ及び講義を行った。

